

全国にはご<sup>きとう</sup>祈禱で有名な神社や寺院がたくさんあります。その中には、<sup>とよかわいなり</sup>豊川稲荷  
・<sup>あきばさんじゃくぼう</sup>秋葉三尺坊・<sup>どうりょうそん</sup>道了尊など、曹洞宗の寺院も少なくありません。<sup>ざぜん</sup>坐禅の宗派で  
ある曹洞宗がご祈禱？と疑問に感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、そのお  
寺の成立に関わるさまざまな伝承などからご祈禱が行われています。その願いは、  
豊作や商売繁盛、火災除けや健康祈願、学業成就などさまざま、多くの皆さんがお  
詣りにいらっしやっています。

さて、曹洞宗のご祈禱の儀式では、多く『<sup>たいはんにゃきょう</sup>大般若経』の「<sup>てんごく</sup>転読」が行われます。  
この『大般若経』は、西遊記で有名な<sup>げんじょう</sup>玄奘三蔵法師が四年をかけて部下の僧と共に  
に翻訳したものです。この『大般若経』を読むことにより、その功德をもって、さ  
まざまな願いをご祈禱するというものです。実際に『大般若経』の中に、「これを持  
ち、唱え、学び、内容を想い、書き写し、理解し、<sup>ほか</sup>他の人に<sup>と</sup>説くならば、その人を  
よく守る」と述べられています。『大般若経』は六百巻あり、儀式の中ですべてをお  
唱えするとは不可能ですので、経本を一冊づつパラパラと開いて左右や前後に振る  
ようにして読んだこととする「転読」という方法を用います。

この「<sup>てんごく</sup>転読」を行う最中に唱える言葉に、次のような内容のものがああります。

「あらゆる存在や物はすべて<sup>いんねん</sup>因縁によって<sup>しょう</sup>生ずるものであり、それ自体固定さ  
れた実体は無い。そのために、過去から現在そして未来へと時間的に持続するもの  
ではなく瞬間毎に消滅する。故に<sup>ゆえ</sup>知覚や認識の対象となることは不可能である。こ  
れを仏教では『<sup>くう</sup>空』とよぶ。この道理を<sup>かん</sup>観ずる道は、一切の<sup>しゅうちやく</sup>執着の心から解き  
はなれた安らぎを得る<sup>はんにゃ</sup>般若の<sup>ちえ</sup>智慧である」というのです。

これは、とらわれの心<sup>はら</sup>を払い、離れることなしに、幸せの招きと訪れは無いとい  
うことです。さまざまな出来事を災難や苦しみとし、悩み続ける私たちは、その根  
源であるとらわれの心<sup>はら</sup>を払わねばならないのです。

大勢の僧侶で六百巻の『大般若経』を「転読」している姿は時に勇壮に見えるで  
しょう。その中で、ご祈禱を通してとらわれの心と決別し、さまざまな<sup>えん</sup>ご縁を感じ、  
よきめぐり合わせを願う……。そんな意味も曹洞宗のご祈禱にはあるのです。